

「図書紹介」

吉田 三男著

「怒りの阿賀」

上 杉 俊 孝

怒りの阿賀
新潟水俣病と環境教育



一、四歳五か月女兒の小脳

「水俣病裁判の吉田」と言われるほどに、著者はなぜ、そんなにまでして新潟水俣病裁判に熱を入れたのかやと、そのなぞがいま解けた思いがします。「新潟

地方裁判所の法廷で証言に立った白木博士の示した一枚のスライドを見て息をのんだのです。たった四歳五か月の、親にとっては目に入れても痛くない程のかわいいさかりの女の子が、どんなに苦しむ

もがきながらいたいけな命を奪われていったのか想像し、この世の地獄そのものである。この子を、そして家族を地獄へ突きおとしたのはだれか、はげしい怒りでその犯人を追求しなければすまない情念のとりこ」となったのです。こうして著者と新潟水俣病とのかわりが始まります。

一九七一年九月二十九日、新潟水俣病裁判の第一審判決は原告被害者側の全面勝利をかちとりました。しかし、それから二〇年、認定患者は六九〇人、認定を棄却された人二九三人、申請しない患者はもっと多い、しかも一九八三年二月九日以降は一人も認定されていません。

二、事実からの出発

裁判の証人尋問のようすが紹介されま

す。

被告(国)側の証人に立ったのは二人の学者です。この二人は共通して、学者の肩書きを振りかざし、原告代理人(弁護士)をしろうつと呼ばわりしているだけです。学者とか医者とかいうならば「実証」が生命です。それができなくて、自己の責任をかくすために事実を目を塞ぎ、調査にもとづかない仮説推論ですべてを説明しようとしているわけです。だから著者はいいます。「事実からの出発でなければなりません。発生の現地に立ち、被害者の生活のヒタの中から考えなければなりません。水俣病の学習にあっても『追体験』的手法をできるだけとりました。『事実からの出発』『さわって考える』方法論、そして『自分にとっての阿賀とは何か』という連帯の原点を探る試みです」と。

三、新潟水俣病の教材化と授業実践

授業実践は四時間のカリキュラムで試みられ、テーマは次のように設定されて

います。

(1)水俣病とはどういう病気か

(2)新潟水俣病はどうしておこったか

(3)草倉・足尾そして水俣（公害はなぜくりかえされるか）

(4)新潟水俣病の社会問題

(1)では、資料集のほかに①ビデオ、②患者の証言を生の声で、さらに③認定患者を教室に招いて、手にさわってみる、話を聞く。こうして臨場感あふれるものにし、生徒は事実をしっかりと見ることによって「これが水俣病だ」という強烈な印象をもつことができました。

(2)では、①患者発生分布図や患者発生 の集積性を見ながら、②なぜ、魚を食べると水俣病になるのかと問題を焦点化していきます。ここでは、⑦昭和電工は何をつくっていたのか、④なぜ水銀をたれ流したのかと、グラフ・年表等を使って一気の問題の核心に迫っていきます。一九六〇年以降昭和電工（鹿瀬工場）は、政府の強力な石油化学化への政策転換により、有利な立地条件を失い、いわば使

すから排水処理施設についても通産省の指導は行われず、当然のこととして水銀のたれ流しは増大し、新潟水俣病の大量発生を促進したわけです。しかも、政府や会社の妨害の中で原因究明は大きくおくれたしまったのです。

(3)では、日本政府は、資本主義発達の歴史のなかで、公害問題をどのように処理してきたのだろうか、①草倉銅山煙害始末記の「今後永久に苦情は申しません。固益のためだから村方は大いに協力します」（公害問題処理の原型）、②足尾鉾毒事件の「永久に此問題に対し苦情等一切申出ざる事」（永久示談書）の資料を基に、それが新日本チッソの水俣病補償交渉にひきつがれていることを考えます。さらに③足尾に学ぶチッソの悪知恵として、原因が工場に起因しないことがわかった場合は見舞い金をうちきる、十年間苦んで死んだ場合の見舞い金一三三万円（昭和三四年）は、工場に起因すると決定した時でもこれ以上要求しないこと、として原因不明の形をとり、あくまでも「見舞い金」として支払うことにした

（当時、熊本大学研究班や工場附属病院では工場廃液が原因であることを裏付けていた）点などを追求します。

まとめとしての(4)では、①なぜ患者認定がストップしたのかを追求します。政府（環境庁）の方針が、昭和五二年に「疑わしきは認定せよ」から「疑わしきは認定するな」にか変わったのです。②被害は身体だけか、については原告の伊藤健康さん（仮名）の陳述書が示されます。③企業に問いたいと、中学生の感想文が紹介されています。「水俣病の三つの責任とは、⑦水俣病をおこした責任、④被害を拡大した責任、⑥迅速かつ可能な限り被害者を救済する責任である。それにもかかわらず、四半世紀にわたっているのにいまだに救済のメドもたっていない」などです。

著者の訴えの百分の一も紹介できませんでした。まとめることの苦手な私にはこれが精一杯です。おわびをしながら筆をおきます。

（うえずぎ としたか）新潟市教職員組合書記長